

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05240	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	超高速ハイブリッドカスケード光 電荷変調による極限時間分解撮像 デバイスと応用開拓	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	川人 祥二 (静岡大学・電子工学研究所・教 授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
○	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、研究代表者らが開発したハイブリッドカスケード光電荷変調素子を用いた超高時間分解撮像デバイスの開発を目的としている。</p> <p>基板表面部を複数の電極に分割し、ゲートとして用いて動的に制御することを目的とする開発ステージ2において、8タップ TPD(Tapped Pinned (photo-) Diode)光電荷変調素子により世界最高水準の性能を有することを実証するなど、計画した内容について着実に進展していると評価する。さらに、当初計画にはなかった光2重変調法を発明し、想定を超える研究の進展をもたらす可能性が示されたことは高く評価できる。</p>		